資　料　編　〈目次〉

Ⅰ　全体構想図 ---------- 2

Ⅱ　評価
1　自己評価、相互評価のための評価項目一覧表 ---------- 3
2　評価カードの形式
(1)　自己評価カード ---------- 3
(2)　相互評価カード ---------- 3
(3)　教師による評価カード ---------- 4

Ⅲ　継続的な活動
1　発表タイム「朗読」で配付したプリント ---------- 4
2　発表タイム「スピーチ」で配付したプリント ---------- 5

Ⅳ　計画的な活動
1　話し方を学ぶ「話す速度」の授業で使用したワークシート ---------- 6
2　話し方を学ぶ「会話」の学習指導案 ---------- 7～10

Ⅴ　資料
1　抽出生徒の変容にかかわる資料
(1)　A男　〔ア　評価の集計表／イ　自己評価カードの記述／ウ　「話し方を学ぶ」の感想／エ　アンケートの記述／オ　12月に実施したアンケートの回答〕 ---------- 11～12
(2)　B男　（　〃　） ---------- 13
(3)　C女　（　〃　） ---------- 14
(4)　D女　（　〃　） ---------- 15
2　学級、学年の変容にかかわる資料
(1)　１年１組　〔ア　教師の評価／イ　相互評価〕 ---------- 16
(2)　１年２組　（　〃　） ---------- 16
(3)　１年３組　（　〃　） ---------- 17
(4)　１年４組　（　〃　） ---------- 17
(5)　学年　（　〃　） ---------- 17
(6)　12月に実施したアンケートの結果 ---------- 18

Ⅰ　全体構想図

【研究主題】

話し言葉によるコミュニケーション能力を高める国語の授業の工夫
－継続的・計画的に行う「話すこと」にかかわる活動を通して－

【研究の内容】

1　継続的に行う活動

話し言葉によるコミュニケーション能力の基礎の定着を図る。

①音読の発表をする。
②朗読の発表をする。
③スピーチをする。

2　計画的に行う活動

話し言葉によるコミュニケーション能力を高める。

①「話す速度」を学ぶ。
②「会話」について学ぶ。

【生徒の実態】

・社会状況の変化により、話し言葉によるコミュニケーション能力が低下している。

・自分の気持ちや考えを十分に表現できないために、級友とのよりよい人間関係がうまく形成できない。

・相手の話を聞き取る能力に関しては、ある程度満足できる状況である。

【目指す生徒像】

相手や場面、目的に応じて、話し言葉による適切なコミュニケーションを取り、よりよい人間関係を形成することができる生徒

【国語科　第１学年の目標】

自分の考えを大切にし、目的や場面に応じて的確に話したり聞いたりする能力を高めるとともに、話し言葉を大切にしようとする態度を育てる。

「『学習指導要領解説国語編』
第１学年目標(1)より」

【望ましい国語力の具体的な目安】

・「話す力」について
①自分の考えを明確にして、説得力を持って論理的に伝えることができる。
②相手や場面に応じ、伝えるべき内容をわかりやすく話すことができる。
③発声・発音・態度などを相手や場面に応じてコントロールできる。

「『これからの時代に求められる国語力について』より」

【ＣＯＭの主なねらい】

・コミュニケーションの基本的な技能や態度を身につけ、積極的に自己表現をする活動を行う。

〈１、２年次のテーマ〉
・コミュニケーションのマナー
・伝えたい思いを正しく伝える

「『中央中等教育学校
スタディガイド2004』より」

Ⅱ　評価

1　自己評価、相互評価のための評価項目一覧表

話す速度	◎	聞き取りやすい速さである。
	○	聞き取れるが、もう少し速い（遅い）方がよい。
	△	半分以上聞き取れない。
音量	◎	聞き取りやすい大きさである。
	○	聞こえるが、もう少し大きい（小さい）方がよい。
	△	半分以上聞こえない。
間の取り方	◎	効果的な間の取り方ができている。
	○	間を取っているが、もう少し工夫した方がよい。
	△	間を取れていない。
話す態度	◎	相手や場面に応じた態度で話すことができている。
	○	話す態度に気をつけているが、もう少ししっかりした方がよい。
	△	相手や場面に応じた態度で話すことができていない。
感情を込める	◎	感情を込めて話すことができている。
	○	感情を込めて話しているが、もう少し工夫した方がよい。
	△	感情を込めて話すことができていない。
話の内容	◎	課題に合った適切な内容で話すことができている。
	○	課題にあった内容で話しているが、もう少し工夫した方がよい。
	△	課題に合った適切な内容で話すことができていない。
言葉遣い	◎	相手や場面に合わせた適切な言葉遣いができている。
	○	ある程度できているが、もう少し気をつけた方がよい。
	△	相手や場面に合わせた適切な言葉遣いができていない。
応答	◎	相手の話に応じた受け答えをすることができている。
	○	相手の話に応じた受け答えがある程度できている。
	△	相手の話に応じた受け答えをすることができていない。

2　評価カードの形式

(1)　自己評価カード

【自己評価カード】

氏名		

速度	音量	間	態度	内容				
◎	○	△	◎	○				

感想

(2)　相互評価カード

【相互評価カード】

発表者		

速度	音量	間	態度	内容				
◎	○	△	◎	○				

アドバイス

(3)　教師による評価カード

氏名	

速度	◎	※助言を記入する。
音量	○	
間	△	
態度	◎	
内容	○	

注：評価カード(1)～(3)は「スピーチ」の時の形式。
　　活動によって評価の項目を入れ替えて使用する。

III　継続的な活動

1　発表タイム「朗読」で配付したプリント

「発表タイム」について

1　今回のテーマ　　朗読「セリフを読む」

○自分の好きな本の中から、セリフを含んだ一部分を選ぶ。
　・すべてセリフでなく、地の文があっても良い。
○選んだ場面を三十秒以上一分以内で朗読する。

2　今回の評価項目

話す速度	◎	聞き取りやすい速さである。
	○	聞き取れるが、もう少し速い（遅い）方がよい。
	△	半分以上聞き取れない。
音量	◎	聞き取りやすい大きさである。
	○	聞こえるが、もう少し大きい（小さい）方がよい。
	△	半分以上聞こえない。
間の取り方	◎	効果的な間の取り方ができている。
	○	間を取っているが、もう少し工夫した方がよい。
	△	間を取れていない。
感情を込める	◎	感情を込めて読むことができている。
	○	感情を込めて読んでいるが、もう少し工夫した方がよい。
	△	感情を込めて読むことができていない。

2　発表タイム「スピーチ」で配付したプリント

「発表タイム」について

1　今回のテーマ　　スピーチ「わたしの一文字」

○「小学校で学習した漢字」の中から一文字を選ぶ。
　・自分の好きな漢字、今の自分を表す漢字など、選び方は自由。
○選んだ漢字について三十秒以上一分以内のスピーチをする。
　・選んだ理由、その漢字に関わる思い出など、内容は自由。
　・書いた文章を読むのではなく、メモを見る程度にする。
　・選んだ漢字の提示方法を工夫する。

2　今回の評価項目

話す速度	◎	聞き取りやすい速さである。
	○	聞き取れるが、もう少し速い（遅い）方がよい。
	△	半分以上聞き取れない。
音量	◎	聞き取りやすい大きさである。
	○	聞こえるが、もう少し大きい（小さい）方がよい。
	△	半分以上聞こえない。
間の取り方	◎	効果的な間の取り方ができている。
	○	間を取っているが、もう少し工夫した方がよい。
	△	間を取れていない。
話す態度	◎	相手や場面に応じた態度で話すことができている。
	○	話す態度に気をつけているが、もう少ししっかりした方がよい。
	△	相手や場面に応じた態度で話すことができていない。
話の内容	◎	課題に合った適切な内容で話すことができている。
	○	課題にあった内容で話しているが、もう少し工夫した方がよい。
	△	課題に合った適切な内容で話すことができていない。

Ⅳ　計画的な活動

1　話し方を学ぶ「話す速度」の授業で使用したワークシート

話し方を学ぶ　～話す速度～

☆アナウンサーに挑戦！

明日、八月三十一日、火曜日の各地の日の出の時刻です。
札幌、四時五十七分。仙台、五時五分。東京、五時十二分。名古屋、五時二十四分。金沢、五時二十三分。大阪、五時三十分。広島、五時四十二分。松江、五時三十九分。松山、五時四十二分。福岡、五時五十一分。那覇、六時九分。
明日、八月三十一日、火曜日の各地の日の出の時刻をお伝えしました。
（ＮＨＫ第一放送「ラジオ深夜便」より）

関東甲信越地方、けさは、くもりや雨のところが多くなっていますが、今日は西の方から、天気がゆっくりと回復に向かう見こみです。朝のうち雨の降っているところもありますが、この雨も昼前には上がり、関東でも日中、内陸部では晴れ間が出る見こみです。現在の気温は十七度台ですが、日中、内陸部では二十五度前後まであがりそうです。
各地の今日の予報です。長野県、山梨県そして群馬県など、西の地方から今日は青空が戻ってくる見こみです。一方、関東地方では、朝のうちくもりや雨のところが多くなりますが、現在降っている雨、昼前にはあがる見こみです。そして内陸部の方から少しずつ青空が戻ってきそうです。なお低気圧に近い新潟県は一日くもり、伊豆諸島の南部も一日天気がすっきりしない見こみです。
（ＮＨＫニュース「おはよう日本」より）

☆適切な速度で読もう　（　　）

小学校の中学年のころ、ぼくはがき大将で毎日近所のちびっ子たちを引き連れて遊び回っていた。縄張り意識が強くて、ぼくらは自分たちの町内をその統治下においていた、つもりだった。放課後になると、裏山に作った基地（斜面に生えた大木の枝に板切れや鉄材をくくりつけて作ったほっ建てだった。）に集まっては、せめてくるかもしれない敵を想定して、ぼくらは石投げの訓練を積んでいたのだ。Ⓐ
初めてあの新聞配達の少年を見たのは、その基地を建設し終わった直後のころのことである。見張りに立っていた弟が大声でぼくを呼んだのだ。
「兄貴、なんか変なのが走りよう。どがんする。」Ⓑ
ぼくは弟の指すほうを見た。肩から新聞をぶら下げた少年（たぶん小学校の高学年か、中学の一年生ぐらいだと思った。）が、一軒一軒の家に新聞を放りこみながら走っているのである。新聞配達の少年の存在は知っていたのだが、こうやって意識してまじまじと見るのは初めてのことであった。Ⓒ
彼はぼくらが見守る中、背筋を伸ばしてすっと下の道を通り過ぎていってしまったのである。
翌日も彼は同じ時刻にそこを通過していった。やはり肩からつるしたたすきに新聞を山盛り入れて、彼は一軒一軒にそれを放りこんでいくのだ。Ⓓ

時間
①
②
③
感想

2　話し方を学ぶ「会話」の学習指導案

国語科学習指導案

Ⅰ　教材名　　話し方を学ぶ　～会話～
Ⅱ　考察　　～略～
Ⅲ　目標　　会話に必要な技能を理解し、その技能を生かして相手や場面に応じた会話をすることができる。
Ⅳ　評価規準

		おおむね満足できる状況（B）	十分満足できる状況（A）
関心・意欲・態度	ア①	会話の目的、会話の技能に関心や意欲を持って学習に取り組もうとしている。	会話の目的、会話の技能に関心や意欲を持ち、明確な目標を持って学習に取り組もうとしている。
	ア②	評価活動に意欲を持って取り組むとともに、評価を通して自分の課題を把握し、改善方法を考えようとしている。	評価活動に意欲を持って取り組むとともに、評価を通して自分の課題を的確に把握し、適切な改善方法を考えようとしている。
話すこと・聞くこと	イ①	自分の考えや気持ちを相手に理解してもらえるように話すことができる。	自分の考えや気持ちが相手に正確に伝わるように、工夫して話すことができる。
	イ②	相手の考えや気持ちを聞き取ることができる。	相手の考えや気持ちを的確に聞き取れるように、工夫して聞くことができる。
言語事項	ウ	話す速度や音量、間の取り方や言葉遣いに注意して会話をすることができる。	話す速度や音量、間の取り方や言葉遣いに注意し、それらの技能を適切に使って会話ができる。

Ⅴ　指導と評価の計画（全３時間、本時は２時間目）

主な学習活動	時間	支援及び指導上の留意点	評価項目
・会話をする時に大切な技能を知る。	1	・本教材で評価する技能を提示する。	ア① ウ
・各自が取り組む会話の場面を決める。		・会話の練習に適当な、日常生活の15通りの場面を設定し、各場面に取り組む生徒を決める。	
・同じ場面に取り組む二人で予想される会話の台本作りと会話の練習をする。		・会話の台本作り、会話の練習の補助教材としてワークシートを配布する。 ・提示した技能を意識して練習するよう助言する。	
・同じ場面に取り組む二人のうち一人を次時の発表者に決める。		・練習の様子で、見本となるような生徒が次時の発表者になるように助言する。	
・前時に決めた発表者が教師を相手役に会話をする。	2	・発表者が自分の発表の様子を客観的に見られるように、発表の様子を録画する。	ア② イ①

・発表の自己評価、相互評価をする。	（本時）	・自己評価、相互評価、教師の評価、発表の様子の録画から、自分の発表を客観的に振り返れるようにする。	イ② ウ
・同じ場面に取り組む二人で会話の練習をする。		・発表を参考にして会話の練習をするように助言する。	
・前時に発表しなかった生徒が教師を相手役に会話をする。	3	・前時に発表しなかった生徒が発表する。 ・発表者が自分の発表の様子を客観的に見られるように、発表の様子を録画する。	ア② イ① イ② ウ
・発表の自己評価、相互評価をする。		・自己評価、相互評価、教師の評価、発表の様子の録画から、自分の発表を客観的に振り返れるようにする。	
・同じ場面に取り組む二人で会話の練習をする。		・発表を参考にして会話の練習をするように助言する。	
・希望者が教師を相手役に会話をする。		・希望者が優先的に発表し、最後に教師が指名した代表者が発表する。	
・会話をする時に大切な技能を確認する。		・教師によるまとめをする。	

Ⅵ　本時の学習

1　ねらい　　相手や内容に応じて会話をする活動に取り組むことで、会話に必要な技能を理解するとともに、各自が身に付ける課題を把握して改善に生かすことができるようにする。

2　準備　　ワークシート、会話の技能一覧表、録画用ＶＴＲ
自己評価カード、相互評価カード、教師による評価カード

3　展開

学習活動	時間	支援及び指導上の留意点 （◎は満足な状況の生徒への発展的な課題） （★は努力を要する生徒に対する手だて）	評価項目
1　各場面の発表者が、教師を相手役に会話をする。（15場面）	30	・発表者は場面ごとの二人組のうち一人とし、前時に決めておく。 ・会話の技能を確認する。 【会話の技能】 ・話す速度　・音量 ・間の取り方　・話す態度 ・言葉遣い　・応答 ・発表時間は一人一分程度とする。 ・発表の様子を録画し、自己評価に生かす。 ・会話の技能一覧表を黒板に掲示しておき、会話の技能に対する生徒の意識が高まるようにする。 ◎生徒が予想した会話の内容をもとに、話題を広げて会話を進める。 ★生徒が予想した会話の内容に沿っ	・相手意識を持って話したり聞いたりすることができる。 （話す・聞く） ・会話の技能に注意して会話をすることができる。 （言語事項）

		て会話を進める。	
2　発表の自己評価、相互評価をし、相互評価カードを発表者に渡す。		・評価の際、「会話の技能」のゴシック体の項目は重点項目として特にしっかり評価するよう助言する。 ・自己評価、相互評価、教師の評価は一人の発表が終わるごとに行う。 ・全員の発表が終わったら、評価カードを交換する。	・評価活動に意欲的に取り組むもうとしている。 （関・意・態）
3　本時の発表への助言を聞く。	5	・発表を通して気付いた全体的な改善点と改善方法を助言する。 ・会話の技能を再確認して、生徒が自分の課題を意識できるようにする。	・評価を通して自分の課題を把握し、改善方法を考えようとしている。 （関・意・態）
4　同じ場面に取り組む相手と二人で会話の練習をする。	15	・練習相手と感想を言ったり助言をし合ったりしながら練習をするよう助言する。 ・机間巡視をして本時の発表者に発表の様子を録画したものを見せ、改善点と改善方法を助言する。 ★課題の把握ができていない生徒は、机間巡視の際に重点的に助言する。 ・次時の発表者には、本時の発表者の発表を参考にして練習をするよう助言する。	・会話の技能に注意して練習をすることができる。 （言語事項）

4　会話の場面設定

	相手（教師の役割）	場面（会話の内容）
1	親	悪かったテストの結果を見せる
2	親	どうしても欲しいものがあるので買ってほしいと頼む
3	親	急に雨が降ってきたので迎えに来てほしいと電話をする
4	部活の先輩	風邪を引いたので部活を休むことを伝える
5	部活の先輩	プロの試合を一緒に見に行こうと誘う
6	担任の先生	今日提出する大事なプリントを忘れてしまった
7	担任の先生	先生から連絡網を回すようにという電話がかかってきた
8	親戚のおじさん	家の人がいない時に来たので待っていてもらう
9	親戚のおじさん	お年玉を送ってくれたのでお礼の電話をかける
10	お年寄り	重そうな荷物を持っていたので持ってあげる
11	お年寄り	道で話しかけられ、学校のことをいろいろ聞かれた
12	店員	間違えて違うＣＤを買ってしまったので返品したい
13	店員	店員が変な洋服をしつこく勧めるので断りたい
14	知らない人	電車で席をゆずったら、その人に話しかけられた
15	知らない人	学校の前で、子持神社に行く道を聞かれた

話し方を学ぶ　～会話～

（　　）

☆会話をする時に大切な技能

話す速度	◎	聞き取りやすい速さである。
	○	聞き取れるが、もう少し速い（遅い）方がよい。
	△	半分以上聞き取れない。
音量	◎	聞き取りやすい大きさである。
	○	聞こえるが、もう少し大きい（小さい）方がよい。
	△	半分以上聞こえない。
間の取り方	◎	効果的な間の取り方ができている。
	○	間を取っているが、もう少し工夫した方がよい。
	△	間を取れていない。
話す態度	◎	相手や場面に応じた態度で話すことができている。
	○	話す態度に気をつけているが、もう少ししっかりした方がよい。
	△	相手や場面に応じた態度で話すことができていない。
言葉遣い	◎	相手や場面に合わせた適切な言葉遣いができている。
	○	ある程度できているが、もう少し気をつけた方がよい。
	△	相手や場面に合わせた適切な言葉遣いができていない。
応答	◎	相手の話に応じた受け答えをすることができている。
	○	相手の話に応じた受け答えがある程度できている。
	△	相手の話に応じた受け答えをすることができていない。

☆発表で心がけること

○相手の立場に立って話す。
・言葉遣い　「～です。～ます。～ございます。」など
・速度、音量、間の取り方を工夫する。
・相手にわかりやすい言葉を使う。
・「別に」「知らない」などは禁句。
○相手の話をよく聞き、相手の言いたいことを聞き取る。

☆会話を予想し、練習しよう

※自分の引いたカードをここに貼ろう。

相手「　　」
自分「　　」
相手「　　」
自分「　　」
相手「　　」
自分「　　」
相手「　　」
自分「　　」
相手「　　」
自分「　　」

感想

Ⅴ　資料

1　抽出生徒の変容にかかわる資料

(1)　A男

ア　評価の集計表

活動	種類	速度	音量	間	活動	種類	速度	音量	間
朗読	教師	2.0	3.0	2.0	会話	教師	3.0	3.0	3.0
	相互	2.6	2.6	2.3		相互	2.7	2.6	2.3
	自己①	2.0	2.0	2.0		自己①	2.0	2.0	2.0
	自己②	2.0	2.0	2.0		自己②	3.0	3.0	3.0
スピーチ	教師	2.0	3.0	3.0					
	相互	2.7	2.8	2.7					
	自己①	2.0	2.0	2.0					
	自己②	3.0	2.0	2.0					

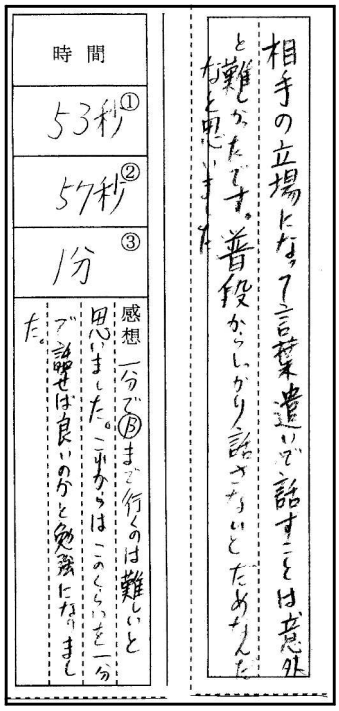
注：・集計する際は◎を3.0、○を2.0、△を1.0と数値化した。
・相互評価は学級の平均値
・自己①は発表直後、自己②は発表の録音や録画を視聴した後

イ　自己評価カードの記述

朗読①	・もっと感情を込めて読めば良かったと思います。
朗読②	・感情を込めて間をあけて読むと良かったです。
スピーチ①	・もう少し態度をしっかりすれば良かったなと思います。
スピーチ②	・手や体をふりふりしゃべっているので、次は注意してやりたいです。
会話①	・応答はまあまあ良かったと思います。
会話②	・体を横にふっていて、文の途中で終わりにしていました。次は、態度と言葉遣いに注意してしたいと思います。

注：１回目は発表直後
　　２回目は発表の録音や録画を視聴した後

ウ　「話し方を学ぶ」の感想



左「話す速度」：右「会話」

エ　アンケートの記述「話す時に心がけていること」

７月	・筋道を立てて考えを言う。 ・相手の立場や気持ちを考える。
11月	・テーマから的はずれにならない様に。 ・筋道を立てて話す。 ・相手の気持ちを考えて話す。
12月	・態度（姿勢）がフラフラしない様に発表すること。 ・話す速度を一分間300字の速さで発表すること。

オ　12月に実施したアンケートの回答

質問項目	回答
①音読、朗読、スピーチの発表をしたことは	とても役に立った
②話す速度の授業は	とても役に立った
③会話の授業は	とても役に立った
④自分の発表を友達や先生に評価してもらったことは	わりと役に立った
⑤自分の発表の録音や録画を見たり聞いたりしたことは	とても役に立った
⑥以前と比べて、話す速さや声の大きさなどを	わりと気にしている
⑦以前と比べて、人前で話すことが	少し得意になった
⑧以前と比べて、自分の話し方は	少し上手になった

(2)　B男

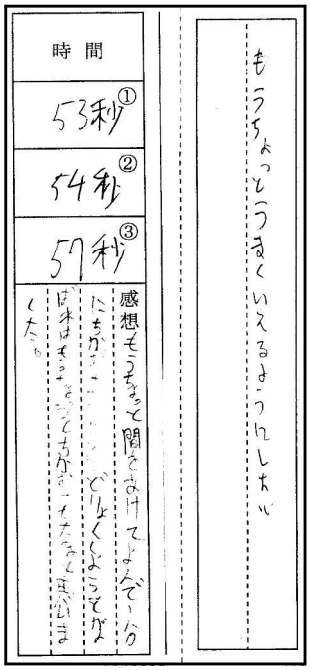
ア　評価の集計表

活動	種類	速度	音量	間	活動	種類	速度	音量	間
朗読	教師	2.0	1.0	1.0	会話	教師	2.0	2.0	2.0
	相互	1.8	1.4	1.8		相互	2.5	2.4	2.4
	自己①	1.0	1.0	1.0		自己①	1.0	1.0	1.0
	自己②	1.0	1.0	1.0		自己②	2.0	2.0	2.0
スピーチ	教師	1.0	2.0	1.0					
	相互	2.3	2.2	1.9					
	自己①	1.0	1.0	1.0					
	自己②	2.0	1.0	1.0					

イ　自己評価カードの記述

朗読①	～記述なし～
朗読②	・声が出ていなかった。
スピーチ①	・全然できない。
スピーチ②	・態度が悪い
会話①	・態度が悪くて、言葉遣いも悪かった。
会話②	・言葉遣いが悪い。

ウ　「話し方を学ぶ」の感想



左「話す速度」：右「会話」

エ　アンケートの記述「話す時に心がけていること」

7月	・なるべくでかい声でしゃべること。 ・紙や書いたものをなるべく見ないようにしゃべること。
11月	・声をなるべく出して話す。緊張しないで言う。
12月	・話す速さを考えて、声をなるべく大きくして話す。 ・話すときには態度をよくして、言葉遣いをよくするようにすること。

オ　12月に実施したアンケートの回答

質問項目	回答
①音読、朗読、スピーチの発表をしたことは	わりと役に立った
②話す速度の授業は	わりと役に立った
③会話の授業は	わりと役に立った
④自分の発表を友達や先生に評価してもらったことは	わりと役に立った
⑤自分の発表の録音や録画を見たり聞いたりしたことは	あまり役に立たなかった
⑥以前と比べて、話す速さや声の大きさなどを	わりと気にしている
⑦以前と比べて、人前で話すことが	特に変わらない
⑧以前と比べて、自分の話し方は	少し上手になった

(3)　C女

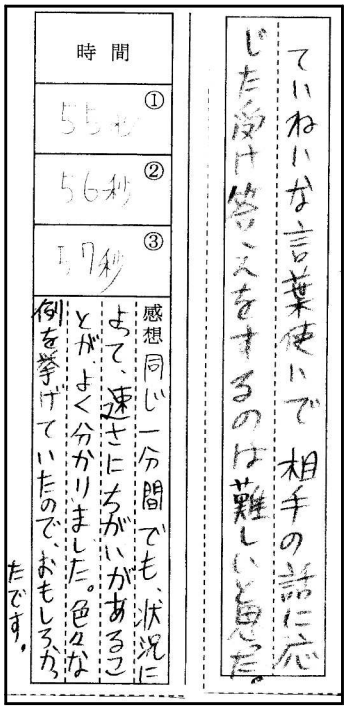
ア　評価の集計表

活動	種類	速度	音量	間	活動	種類	速度	音量	間
朗読	教師	3.0	3.0	2.0	会話	教師	3.0	3.0	3.0
	相互	2.3	2.2	2.1		相互	2.5	2.4	2.3
	自己①	3.0	3.0	3.0		自己①	2.0	3.0	2.0
	自己②	3.0	3.0	3.0		自己②	2.0	3.0	2.0
スピーチ	教師	3.0	3.0	2.0					
	相互	2.2	2.7	2.1					
	自己①	2.0	3.0	2.0					
	自己②	3.0	3.0	2.0					

イ　自己評価カードの記述

朗読①	・感情をこめて読めました。少し緊張した。
朗読②	・感情をこめて読んだつもりだったけど、頑張ればもっと良かったと思う。
スピーチ①	・漢字の提示方法を工夫した。笑顔。
スピーチ②	・話す態度が悪かった。間の取り方も変。
会話①	・アドリブを効かせるのが難しかった。
会話②	・速度、間の取り方を考えると良かった。

ウ　「話し方を学ぶ」の感想



左「話す速度」：右「会話」

エ　アンケートの記述「話す時に心がけていること」

７月	・多くの人の前で考えを言う時は、大きな声で考えを言う。 ・相手によく伝わるように、はっきりと言う。
11月	・説得力のある言葉を使う努力をしている。
12月	・人に分かりやすいようにきちんとした態度で話せるようにしたいです。

オ　12月に実施したアンケートの回答

質問項目	回答
①音読、朗読、スピーチの発表をしたことは	少し役に立った
②話す速度の授業は	少し役に立った
③会話の授業は	少し役に立った
④自分の発表を友達や先生に評価してもらったことは	とても役に立った
⑤自分の発表の録音や録画を見たり聞いたりしたことは	少し役に立った
⑥以前と比べて、話す速さや声の大きさなどを	わりと気にしている
⑦以前と比べて、人前で話すことが	特に変わらない
⑧以前と比べて、自分の話し方は	特に変わらない

(4)　D女

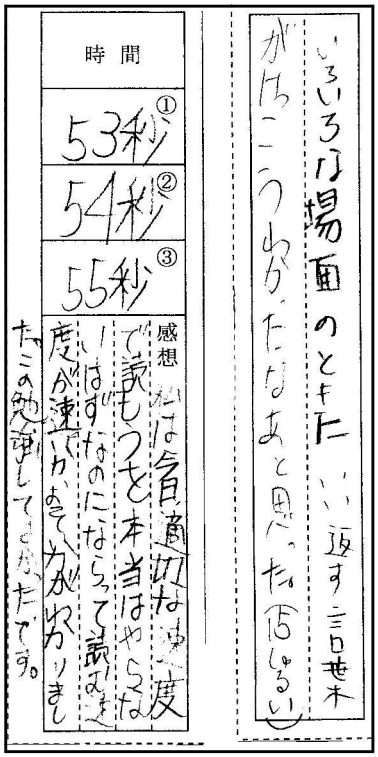
ア　評価の集計表

活動	種類	速度	音量	間	活動	種類	速度	音量	間
朗読	教師	3.0	1.0	1.0	会話	教師	2.0	1.0	2.0
	相互	1.8	1.0	1.9		相互	2.3	1.3	2.3
	自己①	1.0	1.0	1.0		自己①	―	―	―
	自己②	1.0	1.0	2.0		自己②	2.0	1.0	2.0
スピーチ	教師	2.0	1.0	2.0					
	相互	2.0	1.0	2.0					
	自己①	2.0	1.0	2.0					
	自己②	2.0	1.0	2.0					

イ　自己評価カードの記述

朗読①	～記述なし～
朗読②	～記述なし～
スピーチ①	・もう少し工夫した方がよかった。
スピーチ②	・音量が小さい。全体的に工夫。
会話①	～記述なし～
会話②	・声が小さい。

ウ　「話し方を学ぶ」の感想



左「話す速度」：右「会話」

エ　アンケートの記述「話す時に心がけていること」

7月	・大きい声で話す。
11月	・恥ずかしがらず言うようにしているけど恥ずかしい。
12月	・大きな声で話す。

オ　12月に実施したアンケートの回答

質問項目	回答
①音読、朗読、スピーチの発表をしたことは	少し役に立った
②話す速度の授業は	少し役に立った
③会話の授業は	少し役に立った
④自分の発表を友達や先生に評価してもらったことは	少し役に立った
⑤自分の発表の録音や録画を見たり聞いたりしたことは	少し役に立った
⑥以前と比べて、話す速さや声の大きさなどを	わりと気にしている
⑦以前と比べて、人前で話すことが	特に変わらない
⑧以前と比べて、自分の話し方は	特に変わらない

2　学級、学年の変容にかかわる資料

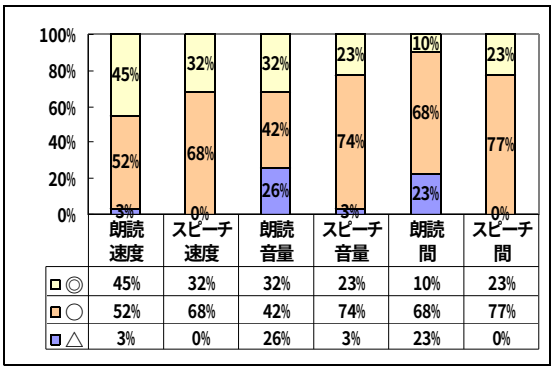
【グラフについて】

(1)から(5)で使用したグラフは「発表タイム」における、話す技能に対する評価の割合を表したグラフである。項目は話す技能の基礎である「速度」「音量」「間の取り方」の三項目とした。「朗読」における状況と「スピーチ」における状況を比較することで、話す技能の定着状況を判断することができる。なお、アのグラフは、教師の評価が◎（十分満足できる状況）、○（おおむね満足できる状況）、△（努力を要する状況）の生徒の割合である。イのグラフでは、学級の半分が◎の評価をした場合にあたる平均値2.5以上を◎、学級全員が○の評価をした場合にあたる平均値2.4～2.0を○、平均値2.0未満を△として集計した。

(6)で使用したグラフは本実践終了後に本校の一年生全体に実施したアンケートの結果を集計したグラフである。

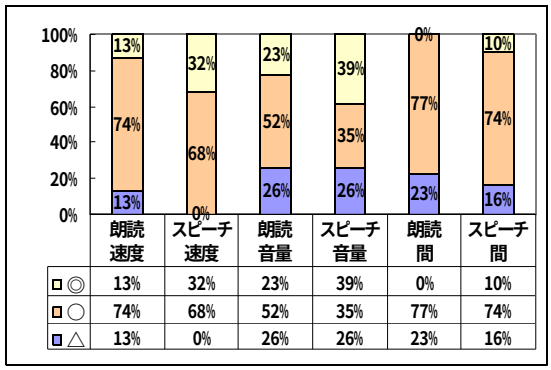
(1)　１年１組（実施人数　31名）

ア　教師の評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	45%	32%	32%	23%	10%	23%
○	52%	68%	42%	74%	68%	77%
△	3%	0%	26%	3%	23%	0%

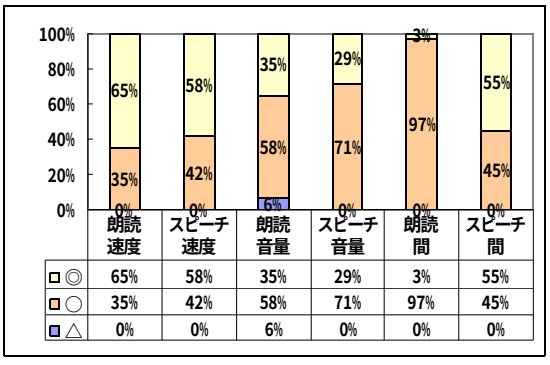
イ　相互評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	13%	32%	23%	39%	0%	10%
○	74%	68%	52%	35%	77%	74%
△	13%	0%	26%	26%	23%	16%

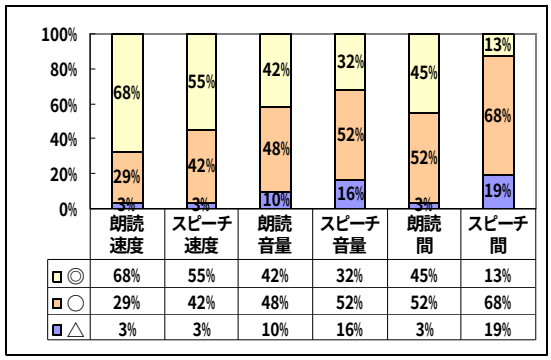
(2)　１年２組（実施人数　31名）

ア　教師の評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	65%	58%	35%	29%	3%	55%
○	35%	42%	58%	71%	97%	45%
△	0%	0%	6%	0%	0%	0%

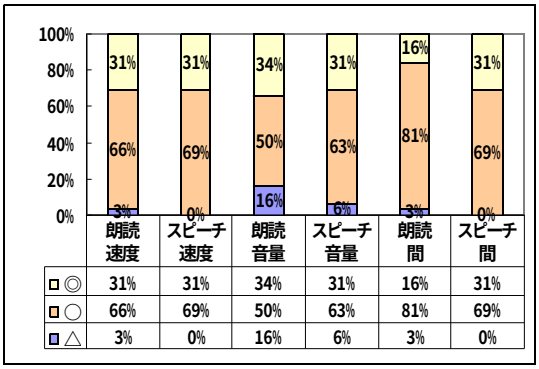
イ　相互評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	68%	55%	42%	32%	45%	13%
○	29%	42%	48%	52%	52%	68%
△	3%	3%	10%	16%	3%	19%

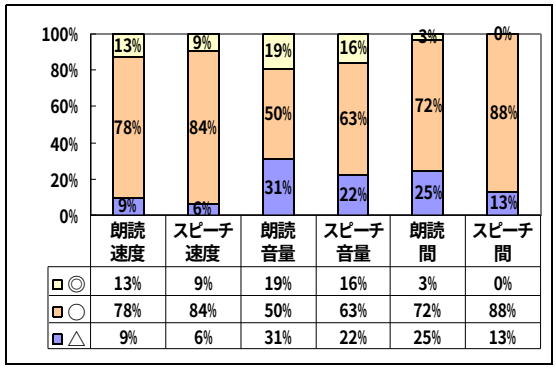
(3)　１年３組（実施人数　32名）

ア　教師の評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	31%	31%	34%	31%	16%	31%
○	66%	69%	50%	63%	81%	69%
△	3%	0%	16%	6%	3%	0%

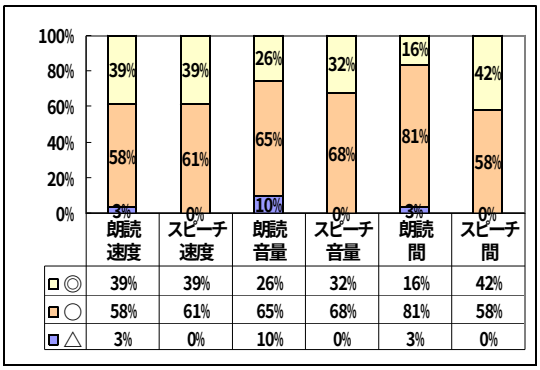
イ　相互評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	13%	9%	19%	16%	3%	0%
○	78%	84%	50%	63%	72%	88%
△	9%	6%	31%	22%	25%	13%

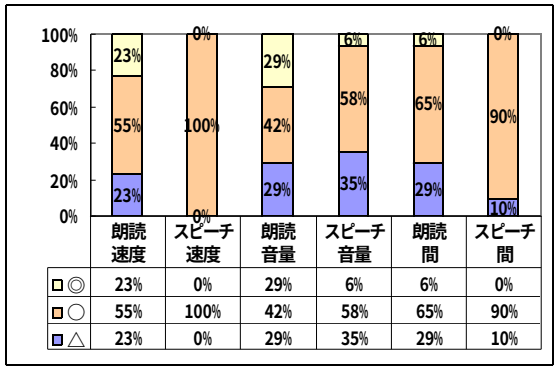
(4)　１年４組（実施人数　31名）

ア　教師の評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	39%	39%	26%	32%	16%	42%
○	58%	61%	65%	68%	81%	58%
△	3%	0%	10%	0%	3%	0%

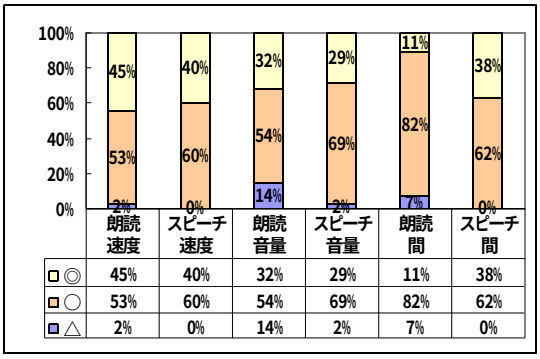
イ　相互評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	23%	0%	29%	6%	6%	0%
○	55%	100%	42%	58%	65%	90%
△	23%	0%	29%	35%	29%	10%

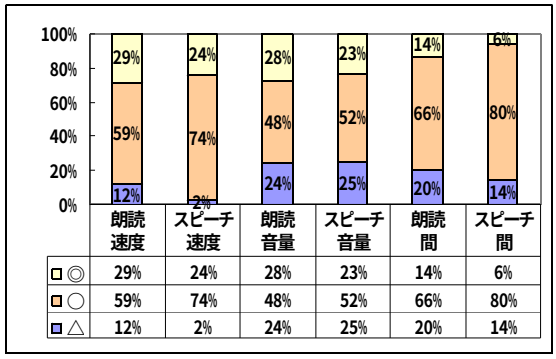
(5)　学年（実施人数　125名）

ア　教師の評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	45%	40%	32%	29%	11%	38%
○	53%	60%	54%	69%	82%	62%
△	2%	0%	14%	2%	7%	0%

イ　相互評価



	朗読速度	スピーチ速度	朗読音量	スピーチ音量	朗読間	スピーチ間
◎	29%	24%	28%	23%	14%	6%
○	59%	74%	48%	52%	66%	80%
△	12%	2%	24%	25%	20%	14%

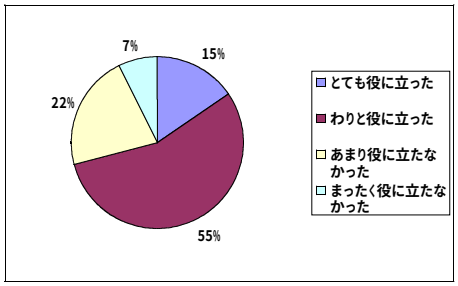
【考察】

教師の評価では、三つの項目とも△の評価の生徒が減少し、ほぼ全員が聞き取りやすい発表をすることができるようになった。発表活動に継続的に取り組むことで、話す技能の基礎が定着したことが裏付けられる。しかし、速度と音量は◎の評価の生徒も減少した。これは、自分の考えを発表することに対する苦手意識が影響したと考えられる。

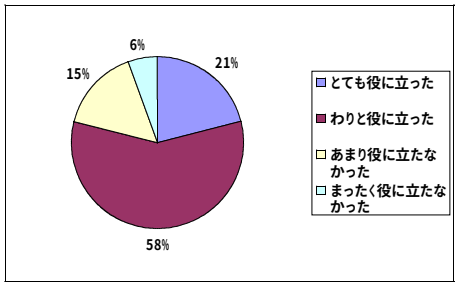
また、学級によっては教師の評価と相互評価のずれが大きい。これは、授業中の雰囲気や学級内の人間関係の違いによると考えられる。生徒が学級の雰囲気や人間関係に左右されず、客観的に評価をすることの難しさが感じられる。

(6)　12月に実施したアンケートの結果（実施人数　123名）

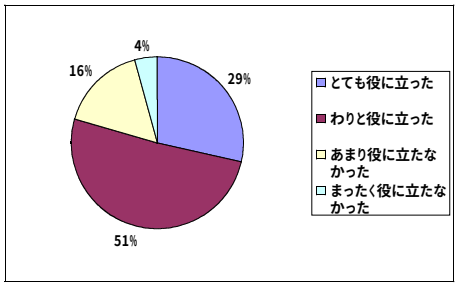
ア　「発表タイム」での発表は



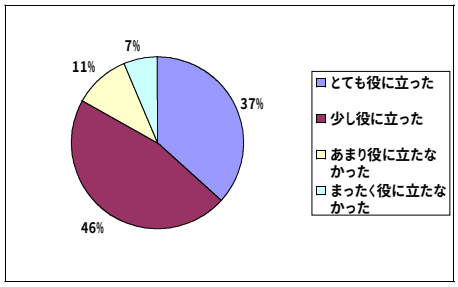
イ　「話す速度」の授業は



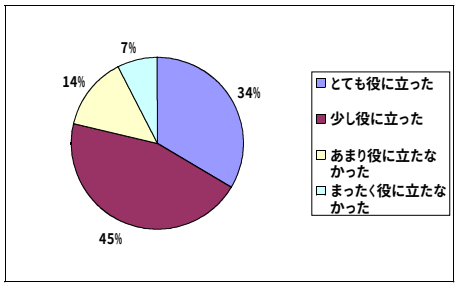
ウ　「会話」の授業は



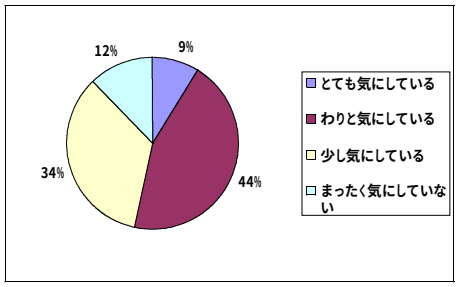
エ　相互評価、先生による評価は



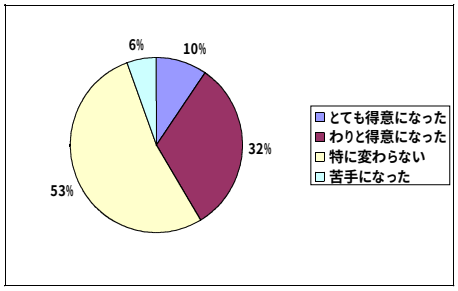
オ　発表の録音や録画を視聴したことは



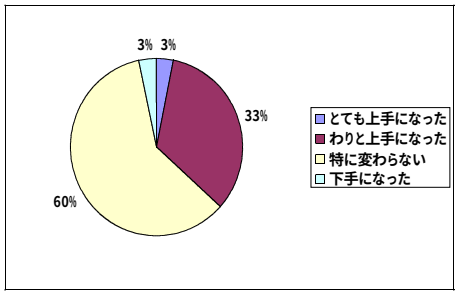
カ　以前と比べて、話す技能を



キ　以前と比べて、人前で話すことは



ク　以前と比べて、自分の話し方は



【考察】

ア～カの結果から、本実践を肯定的にとらえている生徒が多く、こうした実践に生徒が関心を示し、意欲的に取り組めたと言える。一方、キ、クの結果は、生徒自身には「話す技能が向上した」という実感が少ないことを表している。今後こうした実践を継続していくうえで、生徒が自分自身の話す技能の向上を実感できるような工夫が必要である。